

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671700116		
法人名	社会福祉法人 七野会		
事業所名	グループホームみやま		
所在地	京都府南丹市美山町高野素崎14-2		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入退去に伴いお元気な方が多くなり、日常生活の場であることを再認識するとともに、見守りと出来ない事等をサポートすることで、『してもら』から『する』『助け合う』生活への転換を目標として取り組んでいる。職員も身体ケア中心から見守り・サポートを中心としたケアへの内容の変更により戸惑いながらも、共に生活しながら歩めることを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日	平成28年10月31日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念のもと、今年度の目標を「一人ひとりの思いを大切に楽しみながら生活を送れるような支援をします。地域のつながりを大切に近所との交流・連携を深めます。」掲げて支援をしています。思いの実現や、自分でできることは自分でしてもらうための思いの引き出し方や声かけが強制にならないように職員が工夫をされ、できる事を自分で「生活の場」「生活のための居心地の良い空間」作りに取り組んでいます。運営推進会議には、地域から多彩な多数の方が参加され、受けたアドバイスを検討して翌年には取り組まれています。夜間想定避難訓練は昨年度より継続して毎月実施しています。年に2回開催されている流しそうめんやもみじ狩りなどの家族交流会を今年は4回開催されるなど家族間の横の繋がりができると意見交換の機会がもてるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく』暮らし続けて頂くために、日々、一人ひとりに寄り添い、その方の思いを尊重しちょっとした気づきを大切にしながら安心感を持って頂ける様なケアが出来る様に努めている。	法人の理念をもとに事業所独自の目標を毎年立てています。外部評価の課題を参考に職員と一緒に考え、次年度の目標を設定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が環境整備に訪問して下さった時などは、一緒に作業に参加している。設備環境面では、地域と少し距離があるので日常的な交流は出来にくいのが現状である。	地域ボランティアと一緒に草引きなど環境整備作業を行っています。地域のお祭り(美山町のふるさとまつり)に参加したり、他法人(美山やすらぎホーム)の交流会に参加しています。また、小学生とのふれあい体験や中学生・大学生の職場体験なども受け入れをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の交流訪問や中学生・大学生の体験実習等、幅広く受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、会議の場での相談・アドバイスを受けて火災時のマニュアルを作成している。設備面でも、避難経路にスロープを設置したり、提案して頂いた夜間想定避難訓練も毎月実施している。外部からの意見を大切にして、反映することで『地域と共に』考えていける施設である事を目指している。	運営推進会議は、年度初めに日程や家族の当番を決めて案内し、間際にも案内をするなど努力されています。行政・地域包括支援センター・民生委員・区長・消防署・老人クラブなど多数の参加者により開催しています。事業所からの報告を行うとともに、意見や提案を運営に反映され夜間想定避難訓練は昨年度より継続して毎月実施しています。多数の推進会議参加者から、GHがどのような所であるか、看取りについてなどを知ってもらい、意識を変えてもらえる機会になることを目指しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市民生活課課長や、地域包括支援センター職員の参加を得ており、施設の実情を知って頂くとともに、必要時にアドバイスを受けている。又、制度の事や運営に関する事などは、市の担当職員と電話やメールで連絡のやり取りをしながらアドバイスをして頂いている。	運営推進会議には市担当者の参加があり、実情を知ってもらえる機会になっています。年度の提出物などの相談をしたり、高齢者福祉介護担当者や生活保護担当者に来てもらうなど顔の見える関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の目的で夜間は施錠をしているが、日中は開放している。ただ、導線が長く、玄関が死角になる事から、玄関には、事故防止目的でセンサーを設置している。身体拘束や尊厳については内部で学習会を開催している。	身体拘束や尊厳については、法人の担当者による学習会が事業所で毎月開催されています。出入口は夜間以外は施錠せず帰宅願望の利用者には一緒に出る意識、ケアの方法を会議で提案しながら寄り添ったケアに努めています。各居室に錠はなく希望者には鍵を付けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳のある対応をすることで、意識したケアが行えると考えている。 又、内部学習会の機会を持って、意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用されている方があるの で、事前に学習会を行った。月1回訪問される保佐人さんとは、近況を報告したり必要なものの購入許可を頂いたり、何かあればいつでも相談させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、居室又は和室などのゆったりとした場所で、十分な説明を行い、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、交替で参加して意見をいただいている。また、今年度は、サービスに関する満足度調査を実施した。アンケート結果については、会議の場でまとめを報告・事業所の広報誌にも抜粋して掲載している。又、家族交流会等で家族の意見を聴き、それが反映できるようにしている。	流しそうめんやもみじ狩りなどの家族交流会を今年は4回開催されるなど意見交換の機会をもたれています。今年度は満足度調査も実施しています。日々家族の来訪も多く、推進員会議にも当番で出席してもらい意見を聞いて反映できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に法人より担当常務(ホーム長)の訪問があり、今年度は、各月で全職員会議を開催し、その場で事業部門の隔てなく意見交換をしている。	月に2回、派遣職員も参加できるよう時間帯を設定し、全職員で職員会議を実施して意見交換を行っています。年初の事業目標づくりなどもしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた体制の変更や労働条件の考慮等法人全体で取り組んでもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での制度研修に則り、幅広く研修の機会を作って頂いている。 又、学習会の開催は年間を通じて計画されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回の法人内同種部会の中では、議題を抽出して学習会をしたり、サービス内容の検討を行っている。又、昨年度は年に1回ではあったが、職員間交流も行っている。 法人内全職員の業務実践・研究発表会でもケアや業務等についての発表・意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家具や布団、身の回りの物は持参して頂き、自宅と変わらない環境で生活が送って頂けるように配慮している。 まず、お茶と共に、ゆっくりと思いを聴いて、少しずつ不安な思いが解けていくような配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接や見学・契約の場で、家族に本人への思いや、介護への思い、どのような生活が送って欲しいのか等、様々な事を聴きながら、不安の解消に努めている。又、必要時には細やかに連絡を取り、指示を仰いだり、相談させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に担当ケアマネから情報を得たり、面接時に自宅の環境なども含めて生活の様子を知る事を大切にしている。 当施設で援助が困難な場合は、情報提供に努め、場合によっては紹介や照会も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆さんから、日々教えて頂くことが一杯ある。相手とじっくりと向き合うことで、引き出せる事も沢山あるので、職員も一緒に日々生活している事の実感を持って頂けるようなサポートが出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、本人・家族の思いを大切にしながら、本人がより良い生活を送っていただけるようなサポートをしていく旨を伝えている。 毎月の様子を伝える手紙や、様子変化や何かあった時など、細やかに連絡を取り相談や指示を仰ぐことで、共に支えている事を感じて頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事になるべく参加できるようにして、地域との関係性が途切れないような配慮をしている。又、お知り合いやお友達、親戚との面会や交流の時間がゆっくりと持てるようにしている。	地域のお祭りに参加したり、他施設との交流会に参加しています。また併設のデイサービスで交流しています。馴染みの美容院から来訪してもらったり、診療所で馴染みの人と会ったりしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や洗濯もの食事準備など、皆さんに声掛けをして、お互いに助け合いながら一緒に生活出来るような関係性が持てるようにしている。また、相互の関係を良好に保つため、必要に応じてフロア内の家具の配置や食事の席を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の中でお会いした時などに声をかけたり、長期入所されている方には折に触れて面会をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のケースに対して、担当職員を決めて対応する事で細やかな気づきが出来るようにしている。必要時にはその時々や会議の場で情報を共有し、検討して『自分らしく』生活して頂けるように配慮している。	入居時に得た情報はフェイスシートを作成しています。日常生活や様子など細やかな所に気が配れるように担当職員を決め、ケアプランは担当職員を中心に毎月のモニタリングで評価し、概ね3~6ヶ月ごとに見直しをしています。ケース会議やPCへの記録で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に担当ケアマネから情報を得たり、面接時に自宅の環境なども含めて生活の様子を知るようにしている。家族との面談の中で思いや情報を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やケアシート・日誌等を活用して変則的な勤務の中でも状況が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各個別の担当を中心に、計画作成者と相談しながらプランを作成している。毎月の会議でケア内容の確認と修正を行うことで、より良いケアにつながるプランを作成している。プラン変更時には担当者会議を開催し、家族の意向を確認してプランに反映させている。	ケアプランは、多職種により会議で検討して作成しています。ケアプランの変更時には家族の意向を確認して、より良いケアプラン作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに連動したケア・記録が出来るように工夫している。必要時には会議の場で検討して、柔軟に計画が見直せるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まずは口元の健康管理から、ということで歯科医との連携を得て、必要時に訪問診療を受けている。又、理美容ボランティアの定期的な訪問を受けて、カットや希望があれば毛染もして頂いている。ゆっくりと思いを聴くと言う点では、傾聴ボランティアの訪問を受けたり、人との交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や傾聴ボランティアの訪問を受けて職員以外と交流する事で気分転換が図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内にある診療所と医療連携を取っており、24時間体制で対応できるようにしている。定期的受診は、家族の協力を得ながら健康面の把握がして頂けるようにしている。重度の方については、往診体制をとっていただいたり、看取りに際しては、夜間・早朝を問わず、必要時不定期に往診をして頂いた。	地域の診療所と連携を図っています。定期受診は基本的には家族にお願いしていますが、職員が必要に応じて対応しています。受診結果は家族から情報をもらい日誌や申し送りでも共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は担当看護師によりバイタルや体調管理してもらっている。何か気になることがあればデイサービス勤務の看護師もしくは管理者に相談するようにしている。又、夜間でも急変時や重篤な場面では必要時呼び出し体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療情報を提供して、正確な情報が伝わるようにしている。又、こまめに面会に行き、担当職員等から様子を聞きながら早期に退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針に従って説明をし、同意を得ている。医療的な支援が必要になった場合には、ホームでの対応が困難なことも伝えている。重度化した場合には、家族の思いを大切に意向に沿えるようなケアに取り組めるようにしている。終末期ケアに関しては毎年研修を受講したり、内部学習会を持ち、より良いケアを目指している。	入居時に説明するとともに、必要に応じて意向の確認をしています。終末ケアに関しては年に1回外部研修を受講しています。家族の意向に沿えるように医師と職員が連携して家族を含めた担当者会議を開催し、より良いケアに取り組めるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一昨年に職員全員が普通救命講習を受講し、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の夜間想定避難訓練は毎月、欠かさずに行っている。回を重ねる事で緊急事態の対応が冷静に行えるようにと考えている。又、消防署と地域の消防団にも協力を得て、年に1回屋間に避難訓練を開催している。今年度は地域で地震による原発事故の避難訓練が開催され、職員が府・市の職員の指示・サポートのもとで避難訓練に参加した。	昨年の運営推進会議でのアドバイスからマニュアルを作成されました。火災時の夜間想定避難訓練を毎月行っています。玄関にヘルメット、懐中電灯、拡声器が置かれ、2日分の備蓄がわかりやすく整理整頓されて置かれています。	火災時の訓練等毎月行っており、高く評価できますが、今後はさらに地域を巻き込んだ避難訓練を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し、丁寧な言葉使いを心がけている。排泄介助時には、大きな声掛けにならない様に心がけたり、各居室はプライベート空間の為、希望される方には施設できるように配慮している。	人権等の尊重にかかる内部研修を開催しています。自分でできることはやってもらいつつ、強制にならないように配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望や意見を確認する事を大切にしている。入浴では、夕食後に希望される方もあり、これまでの生活習慣を大切に、思いに沿えるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の出来る事を大切にしながら、個々のペースに合わせた生活が送れるように心がけている。帰宅願望が強い時などは、一緒に戸外に出かけたり、自宅の仏壇にお参りするために帰宅したり、必要な時は家族と相談して協力を得ながら、安心して生活が送っていただけるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容ボランティアで、カットや毛染めをして頂いたり、家族には、季節ごとに衣類の入れ替え・点検をお願いしている。必要な物があれば、一緒に買い物に出かけることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は施設内の厨房で食事を作ってもらっているが、誕生日や日曜日・行事ごとがあるときには食べたいものを聞いたり、好きな物を聞きながら一緒に調理を楽しんでいる。	嗜好品は普段の聞き取りや行動から把握できるよう努めています。誕生日や日曜日は職員と一緒に食べたいものを調理をして楽しんでいます。平日の昼夜の食事は盛り付けや片付けを手伝ってもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には注意して、変則勤務の中でケアシートを活用する事で、誰がいくら摂取しているかが分かるようにしている。 又、糖尿病の方が多いので、食事量にも気を付けてカロリーオーバーになりすぎないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関する学習会も行い意識の向上に努めている。毎食後に口腔ケアを行い、夜間には義歯をポリデントで洗浄している。残歯がある方には必要時歯磨き介助を行っている。口腔内や義歯にトラブルがあるときには、家族に相談し、歯科往診をお願いしている。必要時には歯科衛生士から歯磨き指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた適切な排泄が出来るように、会議等で本人にあった排泄用品や支援方法を検討している。夜間は、ゆっくりと休んでいただけるような工夫をしている。	排泄パターンを把握し声掛けや定時誘導を行ってトイレで排泄できるよう支援しています。排泄用品・援助方法については介護等で検討して本人に合ったケアができるように工夫しています。夜間ゆっくりと休んでいただけるように睡眠ペースに合わせたパットを会議で検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤ばかりに頼らずに、牛乳やヨーグルト・野菜等の食品による自然排泄を心がける様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週に3回を目安にしている。身体状況に応じてデイサービスの協力を得てリフト浴を使用したり、又、希望に応じて夕食後の入浴をするなど、個別の希望を大切にしている。急な希望があった場合でも希望に添えるようにしている。	入浴は週に3回を目安に、午後から入ってもらっているとともに、週3回以外でも必要時・希望に応じて対応しています。拒否される方へは声かけの仕方を会議で話し合い入浴意欲がでるようなシナリオを作ったり工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方が多いため、個々の生活リズムを大切にしながら静養を取ることで健康維持に努めている。昼夜逆転にも配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の効能書きについては、職員が必要時すぐに確認できる場所に置いている。薬の保管場所も検討して誤薬の無い様に工夫している。服薬に関する学習会を行い、服薬時には職員同士で声掛けをして確認しながら投薬するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技を生かした取り組みが出来るように配慮している。日によっては、デイサービスの方とレクを一緒にすることで気分転換が出来、一日の中で楽しみを持ちながら過ごしていただけるようにしている。又、調理や洗濯・掃除等、役割を持って日常が送れるような取り組みをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強い方には、一緒に戸外に出る事で気分が変わり落ち着かれる方もある。家族交流会は、今年度4回開催し、家族と一緒に外食したり家族間で交流する機会を設けている。本人の希望に応じて家族と外食したり外泊にも応じ、なるべく家族との絆が希薄にならないようにしている。	地域のお祭り(美山町のふるさとまつり)に参加したり、美山やすらぎホームの交流会へ参加しています。家族交流会で花見やもみじ狩りなどに出かけるなど機会を設けています。	人員体制や地域的な条件もありますが、一人ひとりの希望に沿った外出支援の工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として金銭管理はしないようにしている。家族には説明をして理解を得たうえで、外出や外食・買い物等の際には、事業所より立て替え金を使用して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも連絡が出来るようにしている。又、不安が一杯で帰宅願望が強い方には、家族と相談して毎日夕方に電話を頂いているケースもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく日差しが入り、風通しの良い環境が作れるようにしている。共用空間は、清潔が保てるように配慮し、臭気対策も心がけている。食堂は、食事ベースに合わせたテーブル席の配置をし、ゆったりと食事して頂けるように配慮している。各居室には温湿度計を設置して必要時には加湿器を使用して室内環境が整うように配慮している。	共有の空間は天井が高く、日差しや風通しが心地良い造りになっています。収納スペースが機能的に配置され、整理整頓されています。孤立もせず人の声や視線が気にならないデッドスペースがあり一人で過ごせるように配慮をしています。部屋干しの設備を設置することで室内の乾燥ケアができるような工夫をしています。新しい入居者へはその時々の皆さんの様子に応じて安心して過ごせること・居心地の良い居場所が持てるように必要に応じて配置換えをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にいくつかソファを設置して、気の合った方とゆっくり話をしたり、テレビを見ながらくつろいだり、一人で過ごしたり、それぞれに居心地の良い過ごし方をして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には馴染みの家具を持参して頂き、居心地の良い生活空間・居場所づくりに配慮している。自席が分かるように椅子には個人の座布団を使用し、可能な方には座布団カバーも自分で作ってもらったりしている。	居室は畳の部屋に、馴染みの家具などが置かれて自宅のように居心地よく過ごせるように工夫しています。生活感と自分たちで生活する意識を持ってもらうために朝は各自で居室の清掃をしてもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人が自立した生活が送れるように、足元が悪く、夜間のトイレ歩行に不安がある方には、他の方の同意を得てトイレに近い居室に変更したり、車イスの使用や靴の脱ぎ履きに不安がある場合は畳をフローリングに変更したりしながら、安全な生活が送れるように配慮している。		